

Q: 母乳の冷凍手順について具体的に教えてください。



A:

- ① 搾乳後の母乳を専用容器にいれます。
- ② 母乳を冷凍する場合は、そのほかの液体と同様、母乳も冷凍すると膨張するため、容器の上の部分に少し余裕を持たせて保存します。
- ③ ビニール袋を使用するときは、母乳搾乳用に用意された専用のものを使用します。貯蔵する前に、容器の上部を何度か丁寧に折り返し、冷凍用マスキングテープでしっかり封をします。
- ④ 万が一の破れに備えるため、搾乳した小さなビニール袋数個をさらに大きなビニール袋に入れます。
- ⑤ 各容器には、搾乳した日付と量を明記します。
- ⑥ 搾乳した母乳は、搾乳後直ちに冷凍して下さい。
- ⑦ 凍結は2ドア冷凍冷蔵庫の家庭用冷凍室-20℃で24時間以上行って下さい。

注意！！

CAS冷凍（キャス冷凍）：セルライブシステム

冷凍するが細胞を壊さないのが特徴であり、HTLV-1 感染予防のための母乳冷凍には使用しない。



Q: 冷凍母乳の解凍と加温方法について教えてください。

A:

- ① 冷凍母乳の解凍は、冷蔵庫内の自然解凍、または流水・微温湯解凍をして下さい。これらの解凍方法であればIgA濃度の変化はほとんど認めません。
- ② 解凍・冷蔵母乳の加温方法は、母乳由来リパーゼを保つため、室温が望ましく、温める場合は37℃未満(体温程度)として下さい。電子レンジの使用は不適切であり、また、加温後与えなかった母乳は廃棄して下さい。

Q: 母乳を飲ませない理由を家族や周囲に聞かれた場合、どのような返答すればよいでしょうか？

A:

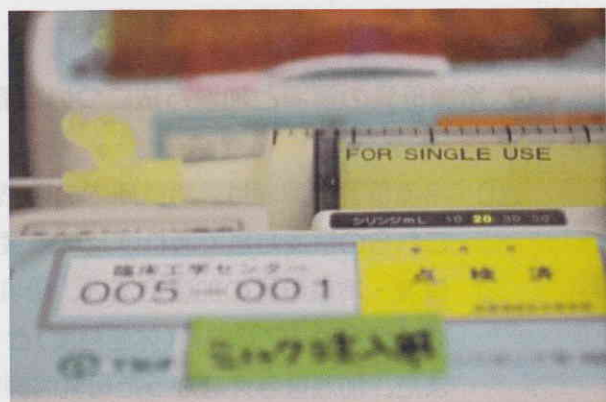
HTLV-1 キャリアの女性の家庭状況やその他の状況によりさまざまですので、本人の意思に任せます。本人がHTLV-1 キャリアであることを知られたくないのであれば、「母乳が出ない」「分娩後の母体の状況により授乳が望ましくないと産科医から指導された」と返答するのも一案です。

(2) 妊娠 32 週あたりで分娩になりそうな妊婦さんの場合

Q: 確認検査が陽性でキャリアであるため授乳方法の説明したところ、新生児壊死性腸炎や感染症の懸念などから母乳を与えたいと言っていますが、問題はないですか？

A:

- ① 早産で出生することになっても、原則として事前に母親の意思を確認する必要があります。
- ② 乳汁の選択にあたっては正期産児とは若干説明内容が異なってきます。
 - 1) 在胎 32 週以下の早産児では、人工栄養の使用によって新生児壊死性腸炎や感染症などによって生存の危険性が脅かされる可能性が高くなると考えられています。このリスクを少しでも減らそうとするならば、一般に母乳を使用することをお奨めします。
 - 2) より早産で出生した児ほど母体から胎児への HTLV-1 移行抗体 (HTLV-1 のウイルスとしての感染力を中和する働きを持つ) の量は少ないと考えられますので、冷凍せずに搾乳したままの状態でも母乳を与えることによって早産児の感染のリスクが高くなる可能性が推測されます。



(3) 子どもへの感染

Q: 子どもへの感染の可能性はどれくらいですか？

A:

母子間の感染は、母乳からの感染がほとんどです。

母乳中に HTLV-1 感染細胞が含まれているためにおこります。

生後 4 ヶ月間以上母乳を飲ませ続けた場合、赤ちゃんの 5~6 人に 1 人が感染（感染率 15~20%）することが知られています。



Q: 子どもに感染したかどうかはいつわかりますか？

A:

- ① 新生児期には、お母さんから赤ちゃんへ移行した抗体（移行抗体と呼ばれています）があるため、検査をしても感染しているのか、あるいはその移行抗体の影響で陽性と出ているのか判断できません。
- ② その判断が確実にできる時期としては、満 3 歳以降が良いといわれています。

Q: 子どもの HTLV-1 抗体検査を受けることのメリット（デメリット）は何ですか？

A:

- ① 検査を受けるかどうかは、ご夫婦で十分に相談した上で決めてください。調べて陰性であった場合は安心できるわけですが、陽性であった場合のことを念頭に置いてください。
- ② 子どもが感染しているかどうかを知っておくことは、もし子どもがキャリアであった場合に、両親が子どもに適切なタイミングで感染について説明できます。もしそうしなければ、子どもが将来献血や妊婦健診でキャリアであることを突然知らされショックを受けたり、誤った思い込みをして不必要に悩んだりする恐れもあります。
- ③ 女性であれば、結婚後両親から離れた環境で妊娠した際、突然 HTLV-1 感染を知らされて一人で不安になることを避けられます。男性はパートナーへの感染を予防できます。また、将来 ATL や HAM の発病を抑えるような方法が開発された際に早く対応できる可能性があります。
- ④ 調べる時期は幼少時に限らず、子どもが HTLV-1 感染について十分理解できる年齢になってから本人と十分相談し、本人の自由意思で調べることもできます。
- ⑤ キャリアであることがわかることのメリットは妊婦を除いては現状では小さく、そのことにより思春期に精神的な負担を負わせてしまう可能性があることを考慮する必要があるかもしれません。

Ⅳ 子どもがキャリアとわかった時の保健指導について

Q: キャリアのこどもの健康管理について教えてください

A:

- ① 特別な健康管理の方法はありません。
- ② 将来的には、住民健診、職場健診などがあれば必ず受診するようにしてください。

Q: キャリアとなった子どもの育児上の注意点について教えてください。

A:

- ① 特別なものはありません。
- ② ウイルスを持っていることを除いて普通のお子さんと同じです。
- ③ 年長児では極めて稀ですが HAM をおこすことがありますので、歩き方がだんだんおかしくなるなど、進行性の歩行障害の症状があれば病院を受診してください。

Q: 上の子どもがキャリアでした。兄弟間で感染はおこりませんか？

A:

兄弟の間ではまず感染しません。



Q: この子から他の人に感染しますか？

A:

- ① このウイルスの主な感染経路は母子感染（主に母乳を介して）と性行為感染（主に男性から女性へ）と輸血感染です。それ以外の日常生活の中で感染していくことはありませんので、大人になるまでは人に感染する可能性が極めて低く、普通に生活していて構いません。
- ② 女の子であれば、将来子どもを持つ際に母子感染が起きる可能性があります。しかし、母子感染の可能性は栄養方法の選択によって或る程度まで下げることができます。
- ③ 男の子であれば、将来性行為を行うようになると相手の女性が感染する可能性があります。ただ大人になってから感染して ATL を発症したという事例はこれまでのところ知られていません。
- ④ 現在、献血の際には HTLV-1 抗体検査を実施していますので、男の子でも女の子でも、献血した場合にその血液が用いられることはありません。

Q: このウイルスは、職場・学校・共同浴場・プールなどでうつりますか？

A:

- ① このウイルスが人から人にうつるためには、キャリアの持つHTLV-Ⅰ感染細胞が生きたまま大量に人の体に入ることが必要です。
- ② 単なる共同生活や、風呂場・プールでの感染はありません。

Q: この子に自分がキャリアであることを教えた方がいいでしょうか？教えるとしたらいつがいいのでしょうか？

A:

- ① お子さんにキャリアであることを伝えるかどうか、伝えるとしたらいつがいいのかは、最終的にはあなた（もし夫にもお話しになっている場合はご夫婦）のご判断によります。
- ② もし伝えなかった場合でも、将来献血をするようになった時や、（女の子であれば）妊娠した時の検査によって、自分がキャリアであることを知るようになります。もしかしら、そのような形で自分がキャリアであることを知るとショックを受けるかも知れません。
- ③ もし知らせるとしたら、献血できる年齢（16歳）になる前、中学生頃か高校に入って間もない頃を目安にした方が良くかも知れません。
- ④ 説明を行う際には、医療関係者も交えて正しい知識を伝えることで、誤解から不必要な悩みを持たないですむように努めることもできます。

Q: この子がATLになることを防ぐにはどうしたらいいのですか？

A:

- ① 現時点ではまだ、いったんキャリアになった人がATLの発症することを防ぐ方法は見つかっていません。
- ② お子さんが成長し、これらの病気を起こすかも知れない年齢に達した頃には、何らかの発症予防法や、もしも発症してしまった場合に有効な治療法が開発されているかも知れません。その場合には様々な形で呼びかけることになるだろうと予測されますので、ご自身がキャリアであることを知っておくことは大切だと思います。



参考文献

- HTLV-1 母子感染予防対策保健指導マニュアル（改訂版） 平成 23 年 3 月
厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課
- HTLV-1 母子感染予防対策 医師向け手引き 平成 23 年 3 月
厚生労働科学特別研究事業
- HTLV-1 キャリアのみなさまへ 平成 22 年度 厚生労働科学研究費補助金研究事業
- HTLV-1 キャリア相談支援（カウンセリング）に役立つQ&A集
平成 25 年度 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業



発行
奈良県医療政策部保健予防課
TEL 0742-27-8661（直通）
平成 26 年 3 月